

「食・農・観」連携の推進は



児玉 重吉 議員

児玉

秋田県は、自然環境や食料自給率が全国2位であるが、食料品製造出荷額、農業算出額は東北最下位である。それを脱するための食・農・観を国内外へまることが売り出す「セル・アキタ」の推進を展開しているなかで、三種町としてはどのように進めているのか。そして今後の対応は。

町長

5月にネットワーキングが県及び各市町村に設置され、研修やセミナーなどを行っているが、事業を活用する具体的方策はまだ出ていない。今後は、県からの指導を受けながら町にあった対応を目指したい。

児玉

町長は「町のトップセールスをする」と明言している。そのなかでも食・農・観について、5年後の抱負は。

町長

町には立派な農業や生産物がある。そして山、川、海、湖沼、温泉と自然資源にも恵まれていることから、全国から田舎暮らしに憧れ、それを求めて集まる町をつくるのも選択肢と考えている。

三種町出身ボクシングチャンピオンに支援を

児玉

日本スーパーフェザー級チャンピオン三浦隆司選手は4度目の防衛を果たし、出身地である県や町の知名度アップ効果は大きい。人材という財産を育てる意味においても、支援や助成が必要と思うが。



10月2日 後楽園ホールにて4度目の防衛果たす

町長

後援会が大変頑張っていることに敬意を表すとともに、町としても有名な選手が出たことから、出来ることがあれば検討したい。

児玉

町のスポーツ功労賞は、対象外になっていくのか。

教育長

プロに対する表彰規定はないが、特別表彰という形で協議できる。

中山間地域直接支払制度の結果は

児玉

6月に第3期中山間直接支払制度三種町基本方針が定められ、積極的に計画、説明、募集、実施と進めてきたが、結果は。

町長

当初予算1億5千万円で募集した結果、63協定、727団地からの申し込みがあった。しかし、国で新たに作成したチェックシートを基に、対象農用地を選定した結果、31協定、178団地、293ヘクタールが対象となり、支払予定額は2千624万円となった。

児玉

予算と計画から出た結果が余りにもかけ離れている。大きく下がった要因に対しての今後の方策は。

町長

現在の厳しい認定基準のあり方を少し引き下げざるべきと提言していきたい。